

# 2017年12月期 第3四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



証券コード : 4572

- 行使価額修正条項付き第16回・第17回新株予約権（第三者割当）を発行（7月）
- 共同研究先であるEpiBiome社のマイクロバイーム（細菌叢）のプロファイリングサービスを日本で提供開始（8月）
- CDC7キナーゼ阻害薬に係るオーストラリア特許登録（9月）

---

10月以降

- **通期業績予想を修正**（詳細はP8-10をご参照ください）

回号	行使状況（2017年10月末まで）
第16回新株予約権	累計行使株式数 226,000株（発行総数の24.30%） 累計行使価額 287,010,000円
第17回新株予約権	行使なし

- ✓売上高は、創薬支援事業が前年比微増となったものの、前年に導出一時金を計上していたため、対前年同期比 16.8%減（対前年同期比97百万円減）
- ✓営業損益は、導出一時金がなかったこと、研究開発費が増加したこと等から、477百万円の損失（対前年同期比142百万円の悪化）
- ✓当期純損益は、前年に特別利益(投資有価証券売却益)を計上していたため、対前年同期比では329百万円の悪化

(単位：百万円)

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2017年12月期第3四半期実績 (a)	483	△477	△486	△508
2016年12月期第3四半期実績 (b)	581	△334	△352	△178
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△97	△142	△133	△329
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△16.8%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

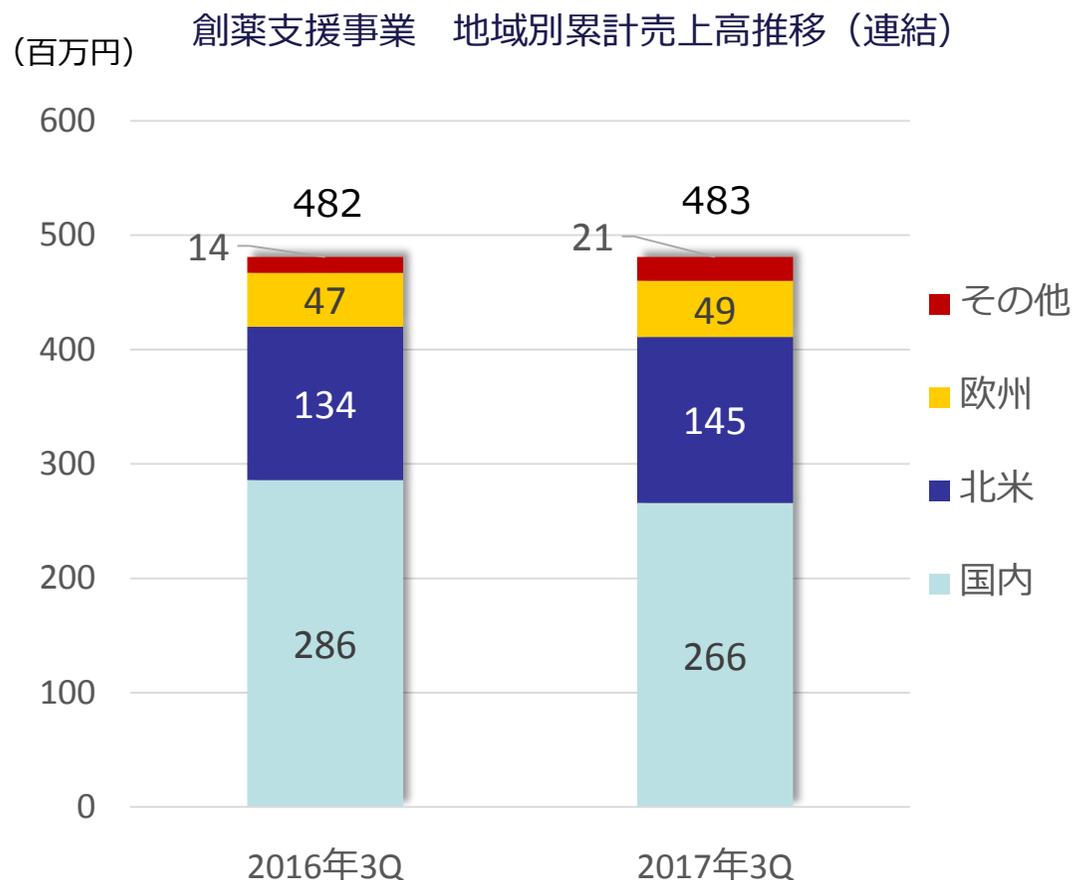
(注2) 対前年同期増減率における、「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値は前期および当期においてそれぞれ損失を計上しているため、数値を表示しておりません。

(単位：百万円)

	売上高			営業損益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2017年12月期 第3四半期実績 (a)	483	—	483	99	△576	△477
2016年12月期 第3四半期実績 (b)	482	98	581	98	△432	△334
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	1	△98	△97	1	△144	△142
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	0.2%	—	△16.8%	1.3%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 創薬事業及び全社の営業損益における対前年同期増減率および通期計画に対する進捗率の値は、損失を計上しているためそれぞれ数値を表示しておりません。



- 国内：小野薬品工業向け売上が117百万円となり、前年同期の148百万円から31百万円減少（対前年同期比△7.0%減）
- 米国：キナーゼタンパク質の販売およびプロファイリング、セルベースアッセイ受託が好調（対前年同期比8.4%増）
- 欧州：キナーゼたんぱく質の販売が好調（対前年同期比5.6%増）
- その他：キナーゼタンパク質の販売およびセルベースアッセイ受託が好調（対前年同期比50.4%増）

# バランスシート状況 (連結)



(単位：百万円)

	2017年12月期 第3四半期末	2016年12月末	増減額	増減理由
流動資産	2,217	2,492	△275	
現金及び預金	1,945	2,161	△215	
その他	271	331	△59	売掛金△28等
固定資産	58	73	△14	
資産合計	2,276	2,566	△290	
流動負債	254	271	△17	未払金△18等
固定負債	421	555	△134	社債△28、長期借入金△106等
負債合計	675	826	△151	
純資産合計	1,601	1,739	△138	利益剰余金△508、資本金及び資本剰余金+361等
負債・純資産合計	2,276	2,566	△290	

自己資本比率	69.7%	67.6%
一株当たり純資産	166.17円	187.73円
PBR(株価純資産倍率)	7.51倍	11.32倍
(参考) 当社株価	1,248円	2,125円

(注) 当社株価はJASDAQグロースにおける終値に基づいております。

# 2017年12月期 通期業績予想の修正



- ✓創薬支援事業の売上が当初予想を下回る見込みであること、また創薬事業では、シエラ社からのマイルストーン受領が来期以降にずれ込む見通しであることから、売上計画を1,440百万円から701百万円へ修正。
- ✓売上計画の減額に伴い、営業損益は727百万円の損失、当期純損益は766百万円の損失となる見込み。

(単位：百万円)

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2017年12月期 前回公表予想 (a)	1,440	39	35	6
2017年12月期 今回公表予想 (b)	701	△727	△738	△766
増減額 (c)=(a)-(b)	△738	△767	△774	△773
増減率 (d)=(c)/(b)	△51.3%	—	—	—
2016年12月期 実績	811	△423	△440	△289

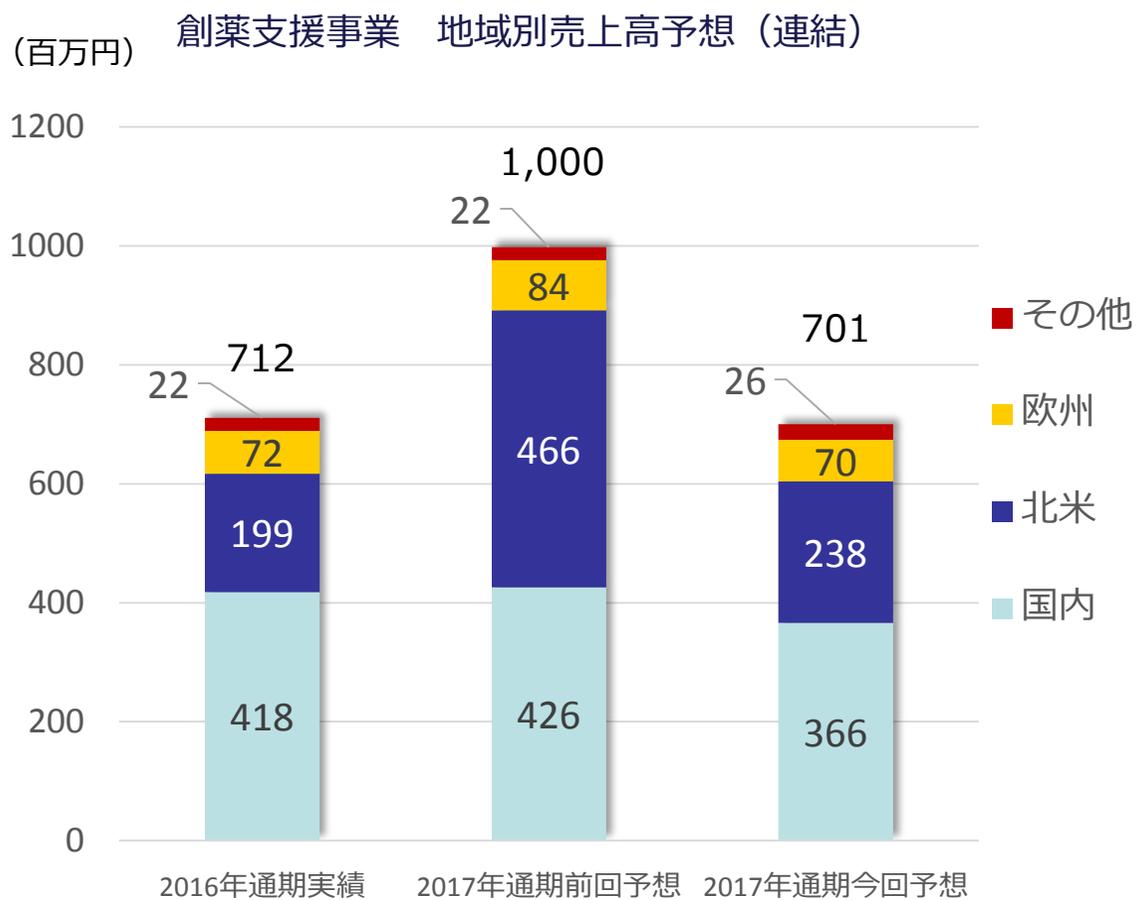
(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 対前年同期増減率における、「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値は前期および当期においてそれぞれ損失を計上しているため、数値を表示しておりません。

- ✓ 創薬支援事業：主に北米でDGKアッセイキットの大規模受注を目指していたもの、今期中の受注は中規模なものにとどまる見込みであること、また国内では、主に小野薬品工業からのプロファイリングサービス受託が想定を下回る見込みであり、売上計画を1,000百万円から701百万円へ修正。
- ✓ 創薬事業：当社がシエラ社に導出したCDC7阻害剤SRA141の臨床試験開始に伴うマイルストーン収入を見込んでいたものの、シエラ社の開発方針の変更に伴い、今期中のマイルストーン受領は難しいと考え、売上計画を440百万円から売上計上なしへ修正。

(単位：百万円)

	売上高			営業損益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2017年12月期 前回公表予想 (a)	1,000	440	1,440	443	△403	39
2017年12月期 今回公表予想 (b)	701	—	701	173	△901	△727
増減額 (c)=(a)-(b)	△298	△440	△738	△270	△497	△767
増減率 (d)=(c)/(b)	△29.8%	—	△51.3%	△60.8%	—	—



- 国内：小野薬品工業からのプロファイリングサービス受託が想定を下回る見込みであり、426百万円から366百万円へ修正。
- 米国：DGKアッセイキットについて、今期中の大型契約受注は難しいと判断し、466百万円から238百万円へ修正。

## <がん領域>

- Sierra Oncology社へ導出したCDC7阻害薬SRA141については、同社が当初の予定通り前臨床試験を実施中。しかし、同社は臨床試験段階にあるパイプライン（SRA737）の開発プログラムを拡大することに短期的にリソースを注力することになった結果、SRA141の臨床試験の開始が来期以降にずれ込むことになった。当社はSRA141の開発が着実に進捗するように同社との更なる連携を図っていく予定。
- 国立研究開発法人国立がん研究センターとの共同研究テーマであるTNIK阻害薬NCB-0846は、日本医療研究開発機構（AMED）の「革新的がん医療実用化研究事業」の支援の下、引き続き研究開発を進めている。バックアップ化合物NCB-0594についても、前臨床試験段階へのステージアップを目指し、引き続き共同研究を実施中。
- 広島大学との共同研究（TGFβシグナル阻害薬）では、白血病幹細胞を標的とした白血病の完治療法や、新しいがん免疫療法の確立を目的として、より効果の高い化合物の取得を目指して最適化研究を継続中。

## <免疫炎症疾患領域>

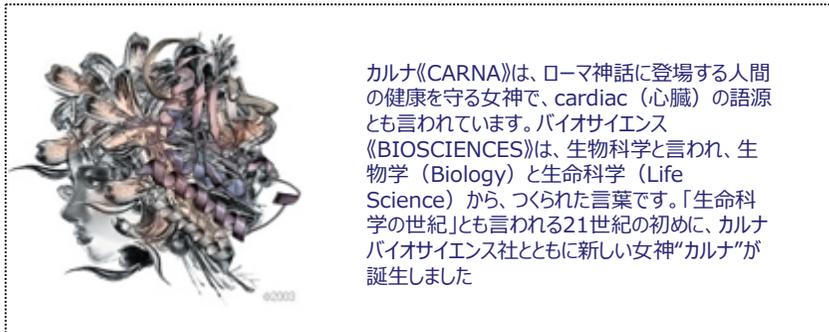
- BTK阻害薬AS-871は、GLP基準での前臨床試験の開始に向けて、原薬製造委託先にて化合物の大量合成を実施中。

## <その他>

- 神経変性疾患を標的としたテーマでは、高活性で高選択的な化合物を取得しており、より優れた医薬品にすべく、さらなるリード化合物の最適化を実施している。
- 北里大学北里生命科学研究所との共同研究である新規マラリア治療薬の研究は、マラリア薬の研究機関であるMedicines for Malaria Venture (MMV)と協力しながら、リード化合物の最適化研究を行っている。
- 大阪府立大学との構造科学的手法を利用した新しい医薬品設計手法の開発に関する共同研究は、これまでの成果に基づいて平成31年8月まで延長。
- 新しいがん免疫療法の研究に関して、慶應大学医学部と共同研究を実施中。
- 愛媛大学医学研究科と新しい創薬標的に関する共同研究も引き続き実施中で、共同研究契約を平成30年9月まで延長。

- 国内では、小野薬品工業向けの売上が前年同期比で減少。国内代理店との協力により売上全体の今後の拡販に注力。
- 北米地域では、DGKアッセイキットの大型受注獲得を目指し、少量のアッセイキットを提供開始。複数企業へ売上を計上。中規模の契約は今期中に獲得できる見込みであり、少量キットを足掛かりに大規模な受注獲得に向け、引き続き営業展開中。
- 国内（BioJapan 2017）や北米（Bio 2017）などで当社製品サービスを紹介し、新規顧客の獲得に注力。
- 国内、北米を中心にキャンペーンを実施し、売上の上積みを図った。戦略的な営業展開により、年末に掛けて売上の拡大を目指す。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀の初めに、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

## カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

[ir-team@carnabio.com](mailto:ir-team@carnabio.com)

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。